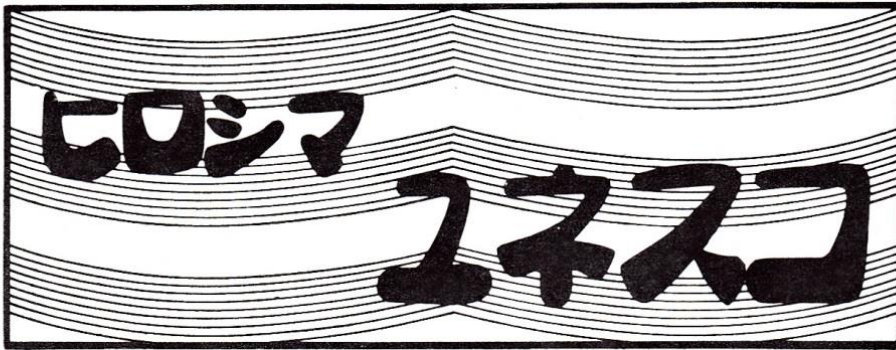


### 第101回ユネスコ・サロン

と き 7月21日(土) 午後1時半～  
 ところ 広島アンデルセン  
 ▶テーマ 「音楽公演事情」  
 ▶講師 音楽プロデューサー 大野 雅史  
 ◇会 費 千円(茶菓代含む)



## 二〇〇一年度総会を開催

二〇〇一年度広島ユネスコ協会総会が、六月十六日、広島アンデルセンを会場に開催され、昨年度事業報告・決算、新年度事業計画・予算など重要案件が審議され、原案どおり決定されました。

昨年度事業報告は、事務局の事業ごとの成果と課題などを分析した詳しい評価をもとに審議されました。また、それに伴う決算や、ドーム絵はがき収支、青少年育成基金決算が木原監事の監査結果とともに報告されま



した。

新年度事業計画は、各専門部会常任理事からそれぞれ説明を受けましたが、新規に行われる予定のものとしては、韓国大邱市ユネスコ協会との交流推進の一環事業の「大邱を知る講座」の実施、大邱親善訪問団の派遣、原爆ドーム絵はがきを英語・韓国語を加えて発行、世界遺産登録

### 二〇〇一年度役員

◇名誉会長 秋葉忠利 ◇名誉顧問 平岡敬 ◇顧問 永井滋郎、松原博臣、加藤朗一、伊東亮三、深崎敏之 ◇会長 北川建次 ◇副会長 木村進匡(組織部会、広報部会担当)、高橋昭博(国際平和部会担当)、竹沢臣子(文化部会担当)、光田鈔(教育部会担当) ◇理事 組織部会 常任理事 平岡豊恵(部会長)、末重文男、松岡盛人 理事 国田繁、山崎芳彦、清水昌法、梶井朝子 青

録五周年事業の実施、宮島ユ協との連携事業の実施、ユネスコ啓発事業としての平和の鐘事業などが計画されています。

また、このほか、高校生などの充実や青少年の育成に力を入れたり、会員増対策を講じるほか、協会設立三十周年(二〇〇三年)記念企画委員会を足させることになっています。

なお、この総会において、二〇〇一年度から二年間の役員改選も報告され、了承されました。(写真は、総会であいさつする北川会長)

長、太鼓矢晋、松尾昭彦、長迫凱朗 理事 藤原降範、足立柳子、崎岡光明、林弘子。(文化部会) 常任理事 井尾義信(部会長)、新川貞之、山崎克洋 理事 中道紘一、藤井孝行、松原博子、米山幸夫、西村憲治。(国際平和部会) 常任理事 藤井正一(部会長)、中山修一、永田龍男、由田千鶴子、岡平裕次 理事 中谷美保子、佐々木肇。(広報部会) 常任理事 古田碩永(部会長)、山本隆信、沖本博。(事務局) 常任理事 亀井章(事務局長)、山本隆信(同次長)、上橋穂詔(同)、新畑志津夫 理事 国田繁、藤井孝行 ◇監事 木原亮、奥中正之(敬称略)

### 原爆ドーム絵はがき 英語・韓国語を付記

原爆ドームの世界遺産登録を記念して、当協会は原爆ドーム絵はがきセットを発行。その後増刷を重ね、現在までの発行部数は九千五百部に達しています。今年、原爆ドームの世界遺産登録五周年を迎えるのを機会に、絵はがきの説明・解説記事に新しく英語・韓国語を加えて三千五百部を印刷・発行します。セットの内容は、戦前・被爆直後・現在(2種)の写真と児童画の五枚のはがきを、画家四国五郎氏の絵を表紙にあしらったケースに収めたもの。

ヒロシマの願いと世界遺産の意味を託す絵はがきの頒布活動に会員のご協力をお願いします。一部五百円。(多部数1・2割引き)。申し込み先は事務局。

### 鎌倉ユネスコ協も発行

鎌倉ユネスコ協会は、同協会の会長でもある平山郁夫・画伯の国内世界遺産(原爆ドーム、厳島神社など)6点絵はがきセットをこのほど発行(一部五百円)。当協会は一括購入して四百円(送料別途)で頒布します。申し込みはハガキで事務局へ。

# 第四回広島ユネスコ活動奨励賞公募開始

「教育・科学・文化を通じて国際理解と国際協力をすすめる活動の育成と推進の一助とする」

賞（広島ユネスコ協会主催、広島市教委後援）の第4回目の公募を開始します。

学校部門では来年度スタートの「総合的学習」に備え、また、社会部門では、国際活動の再点検の機会とするためにも積極的な応募が期待されます。

第1回、第3回を通じて学校部門10校、社会部門12団体が表彰されてきましたが、本事業は、顕彰のみではなく在広交流団体間の交流促進への貢献も重視しています。

## 公募要領

- ▽対象／国際理解、国際協力、国際交流に関する継続的活動
- ▽部門／学校部門（広島市内小学校、中学校、高等学校）、社会部門（広島市内公民館などで活動する団体）
- ▽応募方法／募集要項（請求により郵送。学校、公民館等は直接送付）の応募票に必要事項を記入

項を記入

- ▽提出先／広島ユネスコ協会（東区牛田新町一―八一三）牛田公民館（受付）
- ▽応募締切り／十一月二十日
- ▽発表／十二月中旬
- ▽表彰／賞状、楯を授与
- ▽表彰式／二〇〇二年一月

## 第三回広島ユネスコ活動奨励賞受賞団体紹介（その2）

### ▲モンゴル・ツエツエグV96

年の会設立と同時にモンゴル文部省の協力で、経済的理由で退学した子どもを対象に毎年五名、集中授業で基礎教科と実生活に役立つ実習を課し、勉学の喜びと学ぶ意欲を育ててきた。昨年は現地センターに委嘱してプロジェクトを実施。小学校中途退学の五名が共同生活し、一年間のカリキュラムを六カ月で算数、読み書きの教科、野菜栽培、乳製品作り等を学ぶ。教室の暖房・電気、教師の給料等を賄う財源は会が設けた里親制度（会費月五千元）とバザー、寄付。他に上級学校を目指す子どもの支援も併行して続けている。干ばつ・雪害救援、ゴミ問題ゼミ、原爆展、日本語講座、日本でのモンゴル展など、支援に加えて相互理解と交流を促進。会員七名。現地支部を99年設立。

▲HOPEV93年設立。非識字率60%以上のバングラデシユの子どもの識字教育と女性の自立支援を目指して活動。94年、同国製品を扱う常設店を開店。「収益金を貧困の悪循環に自ら立ち向かう力を育てるために使う」として修学援助資金制度を設立。同年、課外初等教育プロジェクトの援助を現地日本人NGOに委託して開始。97年から同国NGO組織の就学前教育プロジェクトの援助も始め、昨年までに六校を開校。年間、課外初等教育で学ぶ児童は約130名就学前児童は約240名。昨年までの援助額は約七百万円。財源は常設店収益と寄付。商品は「女性の自立と地位向上」のため現地女性が作った伝統的手工芸品、布製品など。仕入れは、現地学校訪問、プロジェクト班・生産者と交流し、経済的自立、伝統文化継承、環境保全を重視。「与える援助」ではなく「自立援助」、無償のボランティアが基本姿勢。会員百名。

## 友好訪問団 大邱市へ（九月）

広島ユネスコ協会では、大邱ユネスコ協会と姉妹協会を提携し、各種の交流を行いますが、前号でお知らせしたように、友好訪問団が姉妹協会提携を記念して、九月二十日から四日間、大邱市を訪問いたします。既に、先方との大筋での交流計画は詰めておりますが、大邱ユ協の心温かい歓迎を受けながら、両協会メンバー同士の交流の推進と、慶州市仏国寺、石窟庵及び八万大藏経のある大邱郊外の伽椰山海印寺の二か所の世界遺産の視察を行います。また、次年度からの青少年の交流を含めた交流計画についても協議することになっております。

## 受講者募集 「もつと知りたい 韓国・大邱講座」

広島ユネスコ協会では、大邱市ユ協との姉妹提携の一環として、「もつと知りたい韓国・大邱講座」を、次のとおり開催いたします。この講座には、大邱市から徐千済氏も講師として参加されます。多くの会員の皆さんが参加されることを期待いたします。

◆とき／九月一日(土)午後二時から五時半まで

◆ところ／広島国際会議場三階 研修室

◆おもな内容／「現代の韓国の概要」歴史、政治、経済、産業、文化、「韓国から見た日本」交流体験と新聞人の眼から、「広島の中の韓国」韓国人原爆被爆者、強制連行労働者」など

◆定員／五十名

◆共催／広島県日韓親善協会

◆後援（予定）／広島平和文化センター、広島大邱交流協会、広島韓国留学生後援会

訪問団は、北川当協会会長を団長に編成され、事前研修も着々と進んでおります。大いなる成果が期待されるところで、予定されるメンバーは次のとおり。（敬称略）

- 足立柳子、井尾義信、井上哲一、井上緑、大本文子、金川みづえ、亀井章、亀井晴美、北川建次、木村進匡、高橋博暢、高橋博子、平岡豊恵、藤井正一、藤井倫子、松尾昭彦、松原博子、光田鈔、大和喜久男、大和美須恵、山本隆信

# 大邱と結んで「平和の鐘」 八月十五日正午

戦争の世紀でもあった20世紀の中で記憶されるべき日の一つに「八月十五日」があります。昨年展開された「平和の文化国際年」の一環として、国内37のユネスコ協会が、終戦記念日の八月十五日を中心に平和への祈りと願いを込めて「平和の鐘」

を鳴らしました。当協会もヒロシマの願いを託して平和公園にある平和の鐘を鳴らしました。今年も「平和の鐘」が全国で取り組まれますが、広島では、今年も平和公園会場に加え、姉妹協会の大邱ユネスコ協会に呼びかけて、同地の平和の鐘と

連帯して、八月十五日正午、同時に鐘を撞きます。また、高麗初期の鐘がある不動院と大邱の寺院も意義に賛同され、「共鳴」が実現します。

日韓市民が、敗戦・解放・加害・被害の立場の違いを超えて21世紀初めての八月十五日、「平和の鐘」を協同して行うことは（とりわけ日本にとって）過去の歴史を省みつつ、今後、更に良好な関係を築いていく上で、意義深いことでしょう。

# 「大邱大好き」サラ ン・ヘグ」開く

広島市の姉妹都市の一つ、韓国大邱市との提携記念行事「大邱の日」フェアが広島市の呼びかけで行われ、当協会は見出しの事業を主管、四月三十日、新しく開館した広島市留学生会館で開催しました。

当日、広島大、広島エリザベト音大、広島修道大などに在籍

する韓国人留学生をゲストに、広島の大學生、市民ら百数十名が参加。会では、大邱・広島双方の交流体験発表を交えたトーク、韓国人大学教師の話、スライドによる在広団体の交流紹介、テコンドー実演、日韓歌の交流など、多彩なプログラムが展開されました。

相互理解の促進と、一層の友好の絆を深めることの大切さを確認しあう意義ある会となりました。

## 新役員紹介

### 常任理事 新畑志津夫

広島ユネスコ協会の活動を知るきっかけとなったのは、原爆ドームと厳島神社の世界遺産への登録活動が、盛んに行われていたころだったと思います。

平和・国際・文化等、協会の幅広い活動に参加させていただき、平和都市広島として、どんなことが発信できるのかを考えていく機会にしたいと思います。

このたび、広島ユネスコ協会の会員として加えていただき、さらに、役員への就任という大役を賜り恐縮しております。微力です。皆様のご指導をよろしくお願いいたします。

### 理事 清水昌法

ユネスコには、今から二十年前に山口県防府ユネスコ協会青年部に入会したのを初めとして約十六年活動して来ました。その後、五年前に転勤で広島市に

来た時にこの協会に入会させていただき今日に至っています。今年度からの組織部は、青年の加入という目標が掲げられています。私としては、この目標に向ってがんばっていきたいと思いますので、みなさまの御協力ほど宜しくお願いします。

### 理事 梶井朝子

入会してまだ一年半の私に大役を仰せつかり、やや緊張しております。思えば中学生の時、初めてユネスコ憲章を読んでその精神に感動したのを覚えています。

### 理事 崎岡光明

私の自宅隣のアパートにベトナムのホーチミン市から事業研修できている三人の少女が住んでいます。「オジサン、ニチヨウビヒマナラハナシニイカセテ」と笑顔で声をかけてきます。来日三カ月、片言の日本語がや

つとです。でも彼女たちは身近かな日本のことを理解しようと必死です。熱意にどう応えるか目下私の日常課題です。

### 理事 林 弘子

教育部の理事を仰せつかりましたが、若い人たちの国際理解を育てていくこと、それは私自身の勉強如何と自戒しています。

広島桜が丘高校ユネスコクラブ顧問になって十九年目になります。当時、突然ユネスコ部を引き受けることになり、ユネスコ活動とはどんなことをすればよいのだろうかと大変戸惑ってました。そこで広大附属の太鼓矢先生、永田先生に、色々お教えていただきその活動を通じてユネスコについて理解を深めていくことができました。微力ながら、国際理解、国際協力、国

### 理事 中道紘二

私とユネスコとの関わりは、昭和48年4月広島市教育委員会社会教育課青少年教育係に勤務したときから始まりました。当時青少年教育係には、山崎氏、古田氏がおられ広島ユネスコクラブの会合に、何度か出席させて頂きました。その後、広島ユネスコ協会が発足し、私は、勤務等の関係で疎遠になってしま

したが、このたび退職を機会に復帰させて頂きました。微力ながら協力したいと思えます。どうぞよろしくおねがいいたします。

# ユネスコ・サロン 100回目を開催

広島ユネスコ協会では、会員及びユネスコ活動に関心をもつ市民を対象に、学習と交流の場として、年に七回程度、「ユネスコ・サロン」を開催していましたが、このほど、記念すべき百回目を終えました。

第一回目は、一九八八年一月に、備前焼作家として有名な人間国宝の藤原雄先生を講師に開催しております。その間、足かけ十四年、当初は「ユネスコ国際交流サロン」として、おもに、国際交流・国際的問題を中心と



したテーマをかけた、各界で活躍中の先生方を講師に招き、学習していましたが、一九九八年から「ユネスコ・サロン」と改称し、歴史、科学、教育、文化、平和、国際交流など、ユネスコ活動に関する幅広い領域のテーマを設定して、今日まで連続として継続してきており、毎回、好評を博しております。会員からも、学習の場として意義深い、と評価を受けておりますが、一般市民の参加も受け入れていることから、ユネスコ活動の周知の場として、新規会員開拓の場としても大きな役割りを果たしています。

去る六月十六日、第百回記念として、当協会の総会の終了後、広島市立大学の曾根幹子講師を招き、「生涯学習としてのスポーツ」と題して講演をいただきました。陸上女子走り高跳びの名選手として名をあげられ、モン

トリオール五輪にも出場された曾根さんの座折と栄光の中から学ばれた人生訓、教育観を織りまぜたお話しは、約百人の参加者の胸をうち、百回記念にふさわしいユネスコ・サロンとなりました。

当協会では、これからも、これまでのペースで開催することとしていきますので、積極的なご参加をお願いします。〈写真は第百回目のサロン〉

## 日本ユネスコ運動全国大会 in 岐阜に参加して

竹沢 臣子

梅雨の晴れ間の緑美しい岐阜でユネスコ加盟50周年記念大会が開催されました。当協会からは北川会長、亀井事務局長と竹沢が出席しました。会場の良長川国際会議場には参加者を迎える岐阜ユネスコの会員が十分に配置され、熱い思いが伝わってきました。協会連盟 児島仁会長のフランクなお人柄がとかく冗漫になりやすい開会式や日本フェアプレー賞授賞式が身近に感じられました。記念講演は岐阜市民にも開放されて平山郁夫副会長の「異文化との対話」を満席の会場で興味深く聞くことが出来ました。

二日目の分科会には「ユネスコ協会のリニューアルと財政、運営、その後」に参加しました。岐阜ユ協、鎌倉ユ協の事例発表後の質疑、意見発表には、どこかの協会もかかえている「財政の確立」「会員の若返り」「活動の活性化」等のご苦労が浮き彫りになりました。広島ユ協もまさに取り組みのさなかにあるところ

です。この分科会で協会連盟の作成した「地域ユネスコ協会のあらたなあゆみのために」と題され

た冊子が配られていました。まだ手直しが必要とのことですが、地域ユ協の一つの指針になるものと思い、できるだけ多くの人にこの冊子がいきわたるよう希望を述べました。

他の分科会のまとめを聞いていて高齢者のできることで、若者ができることとの連携がこれから求められることではないかと考えさせられました。青年アピールに登壇した若者たちを見ながら、担い手の確かさを確信した二日目でした。答えは得られなくとも自分の中に手応えを得た思いです。(副会長)

## 宮島ユ協ですよろしく

様々な分野で国際化・グローバル化が進んでいる中で、国際協力を通して世界遺産の宮島を保存継承し、ユネスコ憲章の理念に基く「平和な文化を創っていく」と、六十名余の賛同者を得て、宮島ユネスコ協会が四月二十五日に設立されました。

世界に広がるユネスコのネットワークを活用しながら、町の活性化の糸口を見出してみようと思えます。

各地のユネスコ協会をはじめ町内の関連ある団体や有識者の方々と連携を図りながら事業を展開してまいります。ご支援・ご協力をお願いいたします。

## 日誌

〈4月〉

15日/機関紙第51号発行

25日/宮島ユネスコ協会設立

28日/第99回ユネスコ・サロン「生活の中の天気」気象予報士・大平真二

28日/理事会

30日/大邸の日「大邸大好き」サロンへ・テグ(広島留学生会館)

10日/組織部会

〈5月〉

4日/文化部会

8日/国際平和部会

9日/中央委員会(岐阜)北川会長出席/宮島ユ協加盟

9日/全国大会(同)北川会長、竹沢副会長、亀井事務局長参加

12日/鎌倉ユ協来広(世界遺産絵はがき普及活動で)

13日/教育部会

16日/総会

第百回ユネスコ・サロン「生涯学習としてのスポーツ」広島市立大学講師 曾根幹子

記念パーティー

〈7月〉

4日/「もつと知りたい韓国・大邸講座」推進委員会